

# 京都市美術館 再整備基本計画

概要版

輝かしい伝統を継承し、  
世界に誇る美術館であるために



～創建 80 年目のイノベーション～

## 京都市美術館

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町 124  
TEL 075-771-4107 FAX 075-761-0444  
URL <http://www.city.kyoto.jp/bunshi/kmma/>



発行／京都市美術館 平成 27 年 3 月  
京都市印刷物 第 263296 号

平成 27 年 3 月



京都市  
CITY OF KYOTO

## 1 「京都市美術館再整備基本計画」の位置付け

京都市美術館は、昭和3年に京都で挙行された天皇即位の大礼を慶祝記念して、昭和8年に日本で2番目の大規模公立美術館として開設しました。

本館は、重厚で歴史ある外観を誇り、自然「光」を取り入れた大展示室や2階展示室は「日本で最も作品が映える美術館」として高く評価されています。

また、3,100点を超える質の高いコレクションを活用した企画展をはじめ、大規模巡回展や海外展など、多彩な展覧会を開催し、京都の文化芸術において大きな役割を果たしています。

しかし、建物や設備の著しい老朽化をはじめ、様々な課題に直面しており、開館80周年の節目を契機に、これらの課題を克服し、50年後、100年後を見据えた将来像を明らかにするため、平成26年3月に「京都市美術館将来構想」を策定しました。

本計画は、「京都市美術館将来構想」に掲げた方向性を実現するため、施設整備に係る具体的な計画を定めるものです。



本館大展示室



第6代清水六兵衛「果実文飾皿」



上村松園「人生の花」



竹内楳風「絵になる最初」

## 2 京都市美術館の主な課題

### (1) 建物・設備の老朽化に伴う課題

- ・ 建物は約80年を経過しており、壁面や屋根の劣化、外光・紫外線対策の不足、空調設備の能力低下など、老朽化に伴う様々な課題が生じており、早急に全面的な改修が必要です。

### (2) スペースの確保など機能面における課題

- ・ 美術館の特色を示す常設展示や大きな展示スペースを要する現代美術展が開催できる展示スペースの確保が困難です。
- ・ 休憩スペースやトイレ、コインロッカーなどが不足し、ユニバーサルデザイン対応も十分ではありません。
- ・ ミュージアムショップやカフェ、レストランなど、来館者の憩いの場となるアメニティ施設が不足しています。

### (3) 既存施設の規模、配置等における課題

- ・ 今後、美術館が新たにコレクションの充実を図っていくため美術館に不可欠な収蔵庫スペースが不足しています。
- ・ エントランス・ロビー空間の狭あいさの解消のほか、展覧会開催中における展示室への搬入動線の確保や搬送トラック用搬入口の狭あいさの解消が求められています。

# 3 岡崎地域の活性化と京都市美術館 ～岡崎文化・交流ゾーンの中核としての京都市美術館～

岡崎地域は、我が国有数の文化・交流ゾーンであり、京都市美術館はその地域の中でも中核的な施設です。また、京都市美術館をはじめ、各施設が東山を借景として緑豊かな景観を形成し、特に琵琶湖疏水沿いは、水辺と建物、緑が一体となった優れた景観を作り上げています。

世界に冠たる文化・交流ゾーンとしての機能をさらに強化するため、現在、京都会馆（ロームシアター京都）や京都市動物園の再整備、神宮道（冷泉通～二条通）と公園の再整備など、大規模なプロジェクトが進められています。

## 岡崎地域のポテンシャル



- ① 近代化の歴史と革新性
  - ・京都の近代化を牽引した進取の気風
  - ・近代化遺産（琵琶湖疏水、インクライン、庭園群など）
- ② 優れた都市景観・環境
  - ・優れたデザインの近代建築物群
  - ・水と緑が共生する創造的で豊かなオープンスペース
  - ・東山山麓に連なるスケールの大きな借景的眺望
- ③ 年間500万人を超える人々の交流の場
  - ・京都岡崎ハレ舞台での様々な祭り・イベント・催し
  - ・集積する文化・交流・集客施設
  - ・豊富な文化財や有名な寺院・神社



# 4 京都市美術館の目指すべき方向性 ～「京都市美術館将来構想」より～

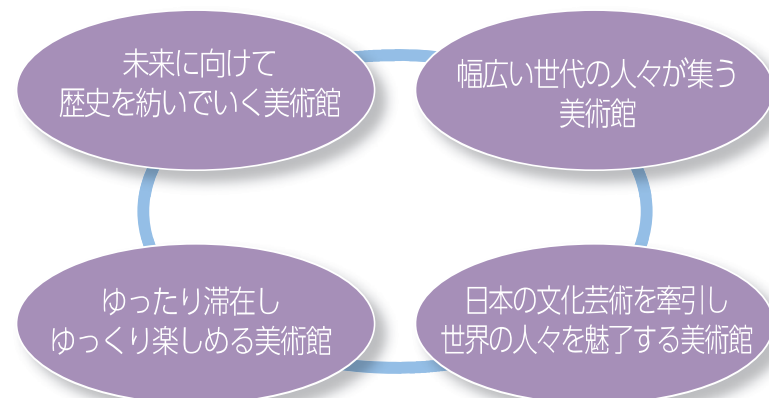
京都市美術館では平成26年3月に、開館80周年を記念して「京都市美術館将来構想」を策定し、今後の美術館が目指すべき方向性として、次の4つの指針を打ち出しました。

## ● 未来に向けて歴史を紡いでいく美術館

- ・近代京都の美術・工芸の発展を示す常設展示の実現
- ・魅力ある主催展・自主企画展の強化
- ・過去から未来へつながるコレクションの充実・活用
- ・美術館の基盤となる調査研究活動の充実

## ● 幅広い世代の人々が集う美術館

- ・現代作家や現代作品の企画展の実施
- ・魅力ある大規模な海外展・全国規模の団体展等の誘致
- ・別館の独自性の強化
- ・芸術系大学や教育機関等との連携
- ・ワークショップルームなどの新設



## ● ゆったり滞在しゆっくり楽しめる美術館

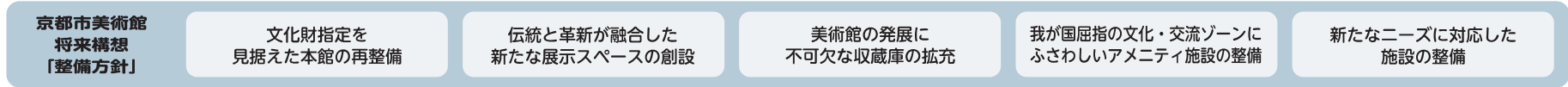
- ・展示室等の環境改善
- ・ミュージアムショップ、カフェ・レストランなどの整備
- ・ユニバーサルデザイン、多言語対応
- ・子どものためのスペースの整備
- ・夜間開館の実施
- ・様々な事業の展開

## ● 日本の文化芸術を牽引し世界の人々を魅了する美術館

- ・京都市美術館を中心とするネットワークの構築、施設間の連携強化
- ・新たな魅力を創出する再整備
- ・世界に向けた発信力の強化と事業展開

# 5 施設整備方針

京都市美術館再整備基本計画では、「京都市美術館将来構想」で示された整備方針を踏まえて、再整備の方針・内容を次のとおり定めます。



## 京都市美術館再整備基本計画

### 整備のコンセプト

- 将来的に文化財指定を目指す 20 世紀の本館に加え、建物自体が作品ともいえる 21 世紀の新棟を建設し、**文化芸術都市・京都の新たなシンボルとなる美術館**を目指します。
- 京都画壇や京都が誇る工芸美術の所蔵品に加え、芸術系大学が集積する強みを活かして現代美術の“今”を発信し、**日本を代表する複合型美術館**としての魅力を高めていきます。
- 世界有数のブランド都市・京都の中核ゾーン岡崎地域のポテンシャルを活かしつつ、ギャラリー機能やアメニティ機能の飛躍的な向上を図り、**日本有数の集客力がある美術館**を目指します。

### 基本方針

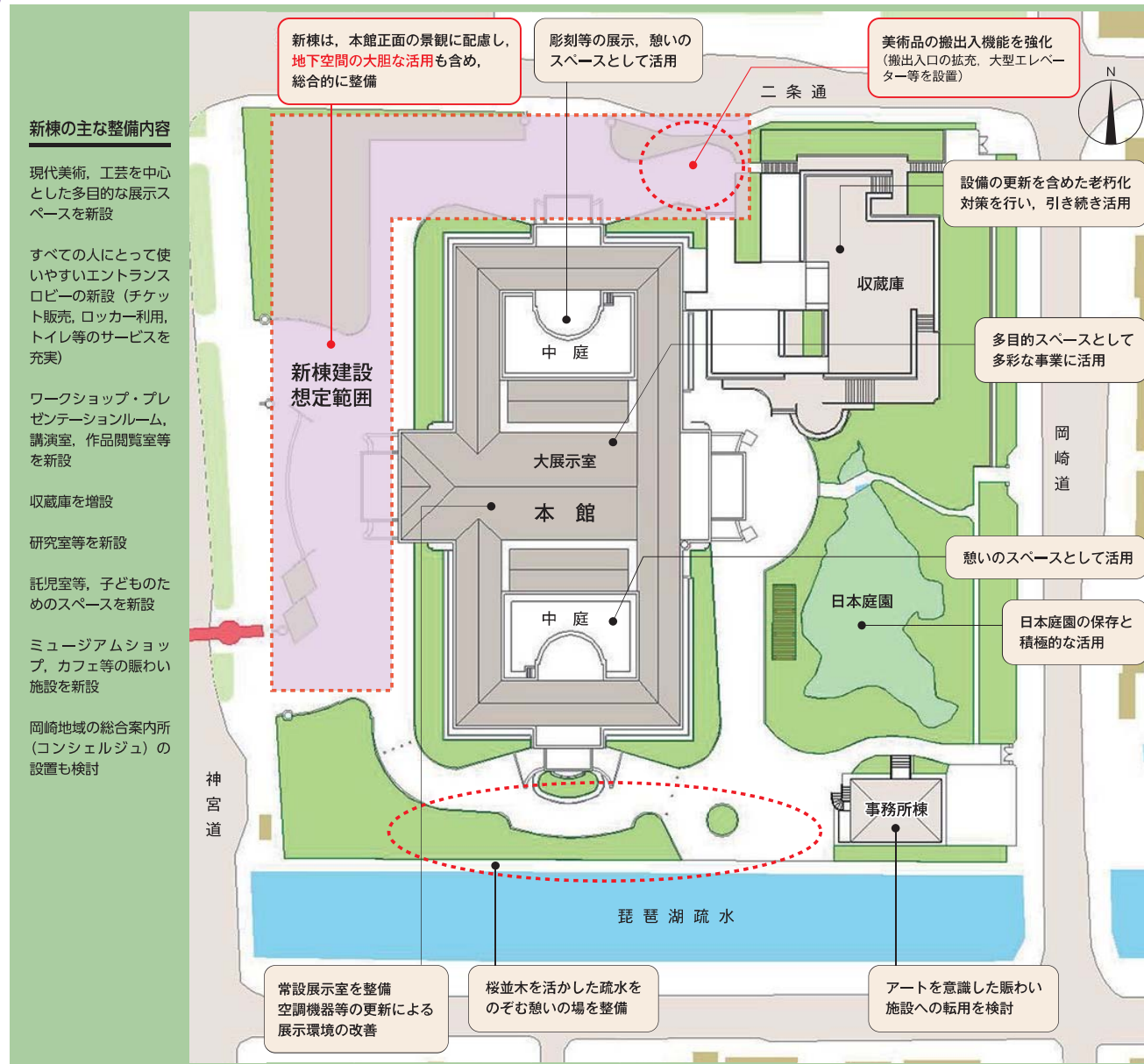
- 我が国を代表する近代建築である本館については、建物の風格を失うことなく保存し、将来的には国の文化財指定を目指します。
- 新棟は、東山を借景にした本館との調和を図った、優れた建築デザインとするとともに、地下空間の大胆な活用も含め整備をします。

### 整備内容の柱

本館の改修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物の保存</li> <li>・展示機能とアメニティ機能の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常設展示スペースを新設、コレクションの中核である「京都画壇」を多角的に紹介し、重層的に京都の美の系譜を理解してもらえる常設展を開催</li> <li>・大展示室に多目的スペースとしての機能を持たせ、展示企画と連動したコンサートや講演会等、展覧会の世界を深めるイベントを開催、国際会議のレセプション会場等にも積極的に活用</li> <li>・断熱補強や空調設備等の刷新により、全展示室の展示環境を大幅に改善、よりきめ細かく、多彩な展示会ニーズに対応</li> <li>・中庭を改修し、憩いのスペースとして再生、彫刻等の作品を展示し、美術を肌で感じられる空間として整備</li> <li>・安全安心な建物とするため、耐震改修を実施</li> <li>・施設のユニバーサルデザイン化を推進</li> <li>・高齢者・妊婦・子ども連れの方々も含め、すべての人が快適に過ごせるよう、施設のユニバーサルデザイン化を推進</li> <li>・自然光が入る展示室については、窓に紫外線を除去する機能等を設け、施設としての魅力を維持</li> </ul>
新棟の建設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地下空間の活用</li> <li>・展示・収蔵・教育普及機能とアメニティ機能の拡張</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代美術、現代工芸等の新たな展示スペースを新設、ギャラリー機能を強化するとともに、世界が注目している新しい領域の現代美術展を開催し、現代美術の情報拠点を創出</li> <li>・ワークショップルーム、講演室、作品閲覧室等を新設、観賞講座やワークショップ、作家の創作過程の公開など多彩な体験型プログラムを実施</li> <li>・収蔵庫を増設し、コレクションの充実、次世代の美術となる現代美術作品の収集、教育普及プログラム充実のための海外作品受入れに対応</li> <li>・託児室等、子どものためのスペースを整備</li> <li>・ミュージアムショップ、カフェ、岡崎地域の案内機能（コンシェルジュ）等の新設などにより、岡崎地域全体の文化・交流拠点として整備</li> </ul>
敷地等の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな賑わい空間の創出</li> <li>・環境と景観への配慮</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務所棟は、アートを意識した賑わい施設に転用を検討</li> <li>・日本庭園の保存と積極的な活用</li> <li>・疏水をのぞむ南側エリアには、桜並木を活かした憩いと交流のスペースを整備</li> <li>・太陽光発電、屋上緑化、コージェネレーションシステムの設置等を検討し、環境に最大限配慮</li> </ul>



# 6 整備の全体概要



## 敷地・建物の現状

項目	本館	収蔵庫	事務所棟	別館
敷地面積	24,331 m <sup>2</sup>			3,132 m <sup>2</sup>
床面積	9,349 m <sup>2</sup>	1,790 m <sup>2</sup>	768 m <sup>2</sup>	1,967 m <sup>2</sup>
建築面積	4,657 m <sup>2</sup>	1,465 m <sup>2</sup>	274 m <sup>2</sup>	892 m <sup>2</sup>

## 敷地に係る主な法令条件

- 都市公園法上の岡崎公園区域
- 都市計画法上の第二種住居地域
- 京都市風致地区条例上の風致第5種地区 (岡崎公園地区特別修景地域)
- その他 地区計画と特別用途地区の区域内

## 再整備後の施設規模と事業費

項目	規模及び費用	
既存棟 (増築部を含む)	約 14,800 m <sup>2</sup>	
新棟	約 6,000 ~ 6,600 m <sup>2</sup>	
合計	約 21,000 m <sup>2</sup>	
【総事業費】	約 100 億円	
内訳	本館改修	約 50 億円
	新棟整備等	約 50 億円

※規模及び費用は想定であり、変動する可能性があります。

# 7 運営方針

## 国際的な視野に立ち、連携と協働により進める多彩な事業

- **魅力的な展覧会の開催**  
【常設展の実現】「京都画壇」を多角的に紹介、京都の美の系譜を重層的に理解できる常設展  
【多様な芸術表現】世界が注目する多様な芸術表現を取り上げた現代美術等の企画展  
【海外との交流】魅力的な海外展の誘致、特色ある美術館とのパートナーシップによる多彩で国際的な文化芸術交流  
【工芸・伝統産業の振興】美術・工芸の系譜に連なる伝統産業産品に着目、地場産業の振興、技術の普及継承につながる展覧会
- **次世代の育成、教育普及・調査研究の充実**  
【若手、市民の活動支援】芸術系大学や美術団体に展覧会場として施設を提供、創作活動を支援  
【大学との連携】芸術系大学や高校と連携、ワークショップルーム等で独自の先駆的教育を体験できる場を提供  
【子どもの美術教育】子どもや先生を対象に常設展の鑑賞講座、ワークショップや作家の創作過程を公開する体験型プログラムを実施  
【調査研究の充実】京都で活動する自主研究会等とも連携、調査研究のネットワーク拡大と、知見の蓄積・向上
- **賑わい創出、MICE 戦略の推進**  
【賑わい創出】ライトアップ等に合わせた夜間開館、京都岡崎ハレ舞台との連携など多彩な活性化事業を実施、また、民間活力を積極的に導入する事業スキームを検討  
【MICE 戦略推進】大展示室や中庭・庭園を、国際会議のレセプション等のユニークベニュー（本来の用途とは異なる特別感のある会場利用を行う施設）として積極的に活用

## 新たなミッションを推進するための運営体制の確立

- ◆ 新たな事業活動に対応して組織と体制を再構築、展覧会や調査研究の充実、広報や資金調達を強化
- ◆ 現代美術等の分野では、展覧会ごとに高い企画力を有する外部キュレーターを採用するなど、時代のニーズに即した人員配置の枠組を創設
- ◆ 補助スタッフに学生ボランティアやインターン制度等を積極的に活用、次代を担う人材を育成

## 美術館の魅力を高め、自立した運営を行うための財源の確保

- ◆ 新たな寄付制度の創設、アメニティ施設への民間活力の導入等による増収策を推進

## 将来的な運営の在り方の検討

- ◆ 美術館活動の基盤をなす学芸部門は直営体制を基本とし、広報や資金調達など、民間の人材、ノウハウが活かせる部門については民間活力の導入も視野に、京都市として責任ある体制を堅持しつつ、さらに魅力を高める運営の在り方を検討

# 8 整備スケジュール

平成27年度に基本設計に着手し、東京オリンピック・パラリンピックの開催（平成32年）を控えた平成30年度中の開館を目指します。ただし、財政状況等によりスケジュール等を見直す可能性があります。

○平成27年度……………基本設計
○平成28年度以降……………実施設計・工事
○平成30年度中……………オープン（予定）